

漢詩

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを

送る」李白

故人西のかた 黄鶴楼を辞し

煙花三月揚州に下る

弧帆の遠影 碧空に尽き

唯だ見る 長江の天際に流るるを

\*唐の李白(七〇一〜七六二)の七言絶句。

つと はくていじょう はつ  
「早に白帝城を発す」

り はく  
李白

あした じ はくていさいうん かん  
朝に辞す白帝彩雲の間

せんり こうりよういちじつ かえ  
千里の江陵一日にして還る

りようがん えんせいな とど  
兩岸の猿声啼いて住まらず

けいしゆうすで す ばんちよう やま  
輕舟已に過ぐ万重の山

しちごんぜっく  
\*七言絶句。

涼州詞  
王翰

りょうしゅうし

おうかん

ぶどう びしゅ  
葡萄の美酒 夜光の杯

の ほつ びわばじょう うなが  
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

よ さじょう ふ きみわら なか  
酔うて沙場に臥す 君笑うこと莫れ

こらいせいせんいくにん かえ  
古来征戦幾人か回る

\*王翰（六八七〜七二六）七言絶句。  
しちごんぜっく

【参考資料】

- 『声に出してよむ漢詩の名作50』 莊魯迅／著 （平凡社）  
『中國詩人選集 7 李白 上』 （岩波書店）  
『中国名詩選 中』 松枝茂夫／編 （岩波文庫）